



2016年1月になりました。

皆様 明けましておめでとうございます。

新しい年 新年 新春 新学期 新年度・・・新婚

本来「新しい」とは「初めて」・「出来て間もない」という時間軸の感覚が基本必要です
しかし、時として、「新しい」は今までにあったものを「改める」という意味も持ちます。

私・・・かつて建築業界におり、業界では何もない所に新たに作るという「新築」の他に
現存状態の不具合を修理等して利用する「営繕」

現存状態を基本に長期利用を見越し利便性の向上を目的とする・・・「改修・改築」
というものがありました。改修依頼の施主さんはほぼ「本当は新築したいのですが～
無理なんで～」と・仕方がなく改修・それが当時の一般的な感覚でした。

1970年の後半・閉鎖的なこの業界に新風が起きました。「リフォーム」分野です。
その頃の棟梁、親方は今までの改築工事とリフォーム工事の違いが全くわかりません
「そりゃそうです！！やることは今までと同じ」でしたから・・・

混乱の最中「インテリアコーディネーター」なんて「女」まで入り込んでさらに大騒ぎ。
彼女達が望むのは新築気分が味わえる改修や営繕。今までになかったもの「新しいもの」
を取り入れる事。過去の踏襲ではなく新たなアイデア。親方も棟梁もとても頑張りました。
そして、彼女たちも学んだのです。先人の知恵や経験の重要さを・・・

おかげで「リフォーム」大成功。和製英語にも関わらず言葉としても定着しました。
カレーライスにソースをかけるお父さんはソースを止め、朝のゴミ出しをしました。
お布団の上げ下ろしから解放されたお母さんはエアロビクスに行く様になりました。

そして現在。リフォームは「リノベーション」へと移り変わろうとしています。
今あるものに新しさを加え、さらに既にもっている機能に付加価値を付け再生する」
これは単に「新しい」という概念以上に高度な試みです。

人が従来持っている思考や発想を超える所に着眼しなければなりません。

新学期用の洋服を新調するようにはいかないのです。「何を着るか？」では無く
「そもそもの着飾って行く必要があるのか？」という所から再考する視点が必要です。

私は今、新年を迎えた事を素直に喜びつつも「新しい」という言葉の重み考え、当時の
棟梁達の言葉を思い出しています。「リフォームっていうのは俺らが小奇麗するばかりじゃ
駄目なんだな！施主さんの暮らしも替えなきゃだめなんだな」と・・・そうです。
そうだったのです。 21世紀の現在、リノベーションでは作者、使う者
両者には、さらに大きな発想の転換と強い適応力が求められています。

新しい公共 新しいゆうゆう館・・・

それは、創るものと使うものが一緒に

「新しい」を築いていくことで叶えられます。

新年を迎え、本当に新しいものを創り出す難しさと

同時にその楽しさを味わえる様になりたいと思う私たちです。



皆様 本年もどうぞよろしくお願ひいたします。 2016年1月3日

プロップK 理事一同 ゆうゆう久我山館 上高井戸館一同